

## 「初芝堺中学校 7 期生におけるアントレプレナーシップ教育」

川本 秀樹

学校法人大阪初芝学園初芝堺中学校 教諭（総合学習担当）

### 1. はじめに

本校は、実社会でリーダーとなりうる人材を輩出することをめざし、平成14年度より総合学習の一環として、アントレプレナーシップ教育（本校ではベンチャー教育と呼ぶ）を導入している。

その特色として、学校全体としての取り組み企業の支援・協力による実社会型 体験・体感型があげられる。

獲得したい(目標とする)能力に大きな変化はないが、その方法は、当初の商品開発中心から、広告やファイナンシャル・リテラシーなどの導入へと多岐にわたっている。

### 2. 本文

#### (1) 序論

現在の3年生(7期生)が入学した時は、本校アントレプレナーシップ教育が3年目をむかえた年であり、一定の目標と方法が確立されてきた時期であった。特に「目に見える学力」(教科教育)と、「目に見えにくい学力」(生きる力・人間力・特色教育)とを、相乗効果のあるものとし、いかに進路選択(指導)に結びつけるかが課題であった。

以下に、7期生における年次ごとの授業内容・知見をまとめてみたいと思う。

#### (2) 本文内容

##### <1年次>

株式会社グルメ杵屋の協力を得、「 な方にやさしい食事を作ろう」というテーマで新メニューの開発をすすめた。

獲得目標として、情報収集・分析力、課題設定・解決力、創造・発想力、コミュニケーション力、計画性・協調性などがあげられるが、それ以外に「食育」・「多角的な視点」という要素を含めた。

##### <2年次>

公共広告機構(AC)の支援のもと、公共広告の制作を行った。特に欧米ですすんでいるドラマ教育の手法を取り入れ、1年次の獲得目標継続と、気づかないことへの「気づき」を中心に感受性・コミュニケーション力・

表現力の獲得をめざした。

##### <3年次>

本校では「しあわせ科」という名称で、1・2年次で得た能力・知識を活用し、総括的な学習年次に設定している。

特にキャッシュ・フロー学習を取り入れ、ファイナンシャル・リテラシー(有効な資産運用)の感覚を身につけるとともに、経済・社会の仕組みを、より実社会に近い形で学習している。

### 3. まとめ

アントレプレナーシップ教育に対して、本校生徒の約82%が「楽しかった」、そして約89%が「ためになった」とアンケートで回答している。

これに関して、「総合学習に対し肯定的な意見を持つ生徒は、教科学習において意欲・学力において向上的な結果がみられる」との報告事例がある(小林 洋 2002ベネッセ文教総研)

つまり本校の場合、総合学習であるアントレプレナーシップ教育が、生徒の社会への関心を高め、それが動機となり、学ぶ意欲・態度の向上、進路選択につながっているのではないかと推察できる。

今後、アントレプレナーシップ教育導入前後における教科学習・進路選択に関するデータの収集と分析を行い、アントレプレナーシップ教育のより効果のある手法を模索していきたいと考えている。